佳 作

おばさんありがとう

埼玉県 さいたま市立大谷場東小学校四年 髙水 俊

雨の日は、となりのマンションの正面げん関になり分で、集合場所はぼくの家のすぐ前の弁天公園です。の登校はんは、十三人います。集合時間は七時四十 ま 雨 す。 ぼくの学校は、 朝は登校はんで登校 しま す。 四ぼ十く

ぼくの方が下校時間兄は中学生なので、 前です。 着分に 間に をつ 五十五分に家を出ます。ぼくや兄が出ぼくの家は、母も平日は仕事をして ることになって ことになっています。つけているのですが、 家を出なければなりません。だ 7 の方が下校時間が早 しまけ ぼくの集合時間までは、 るので、 1,1 ぼくよりも早めに出発します。 ぼくは集合時間より二十分早く ぼくや兄が出かけるず」は仕事をしていて、朝 だから、ぼくも兄と同じ時朝は兄が最後にカギを閉め 11 ので、ランドセルにカギ 四十五分あります。 いたい七時二十 かっというのは

> をかけてくれるからです。 いる近くの歯科医院のおばさんが、いつもぼくに声ているわけではありません。毎朝はきそうじをしてでも、ぼくは一人ぽっちでみんなが来るのを待っ

「早い ねえ。」

をでは、 一次 でした。 にありません。ぼくに元気がもらえるような、明る にありません。ぼくに元気がもらえるような、明る にありません。ぼくに元気がもらえるような、明る にありません。ぼくに元気がもらえるような、明る のがでした。

など、色々なことを話しかけてくれ「知らない人には気をつけてね。」 いるおじさんが、公園のいるおじさんが、公園の 顔をして見るからにイライラして 横の 道を、 ます。

んが通りすぎてから、かったけれど、こわい ないかと、びくびくしていました。結局ひがすぎて行きました。ぼくと目が合ってこうげと足をふみ鳴らして、うでを大きくふりなが 「ち、ふざけんな。」 たけれど、こわい思い おばさんが、 をしました。 その いきされ いきされ り ľ

「行ったね。こわかったね。」

と言 いました。

ます。ぼくはペコッとおじぎをします。 もは朝からおばさんがにこにこして手をふっ こんなことが毎日あるわけではありません。 てくれつ

「みんな、 なかなか来ない ね。

とです。みんなを待つ時間が、ぼくが一番うれしいのは、会話と言って、心配してくれてあり ことで楽しくなります 待つ時間が、おばさんとしゃべるいのは、会話がはずむ日があるこてくれてありがたいと思います。

っているから、 ます ってい おばさんが ない日もあります。 安心していられるのだな」けれど、「おばさんに見守っ るのだな」と思いんに見守ってもたんな日は、い 思いいもられてい

ます。 きません。 LI ます。 ぼくは、 。これからもおばさんとの朝の時間を大切にいつもぼくを見守ってくれてありがとうござ でも、 でも、心の中でおばさんに感しゃはずかしくてなかなかハキハキと ハキと返事で してい